

5年

「国土の保全」

見直し点・強調点

新保 元康

―我が国の国土をもっと教えるべきだ―

一 我が不明を恥じる

今回の東日本大震災は、日本の社会科をも大きく揺さぶった。社会科は、変わらなければならぬ。

何より、「私は、社会科が専門です」と言い続けてきた自分の不明を恥じる。日本がこれほどの危機に見舞われる可能性をもっていることを知らなかった。自分の不明を恥じつつ、5年社会科の「見直し点」を提案する。

二 見直すべきポイント

次の五点を見直すべきである。

① 国土と国土の保全にかかわる学

習を、三五時間程度に増やす。

② 諸外国との比較を通じて我が国の国土の特徴を教える。

③ 知識の徹底した習得を目指す。

④ ICTを活用し、ビジュアルでどの子にも分かりやすい授業とする。

⑤ 理科・総合など他教科との関連を十分図る。

この説明の前に、我が国の国土がどれほど脆弱なのかを書きたい。こうした知識を5学年でたたき込むべきだと言うのが最大の主張である。

三 我が国土の脆弱性

国土技術研究センター理事長の大石久和氏は、著書『国土学事始め』（二〇〇六年、毎日新聞社刊）で次のような八つの国土の脆弱性を示している。以下は、これを参考にした私の説明である。ぜひ原著を読んでほしい。

① 国土の形状がもたらす困難

我が国の国土は、大変細長く、海岸線が入り組んでいる。非常にゆがみのある大きな形なのである。この国土で全国を結びつける交通網を整備するのは大変。陸続きの丸い形のフランスやドイツなどでは、中心から放射状に作れば

良い。日本とは大違いである。

海岸線の長さは三万キロ以上で、実は米国の海岸線の長さを超えるほどである。その津々浦々に人が住んでおり、当然港や堤防などが必要になる。

②主要部が四島に分かれている
国土の主要部が四つの島に分かれている困難も大きい。この四島の交通網が一体となったのはつい最近、二〇世紀末である。つなぎ目は、当然脆弱にならざるを得ない。我が国は、一旦事が起れば国土が切断される危機を常に抱えた国なのである。

③脊梁山脈の問題

細長い日本。その狭いところを高い山脈が東北方向から西南方向に貫いている。そして、国土が完全に分断されている。当然、交通網はトンネルだらけになる。これは普通のことではない。フランスのTGVは、東南部のリヨ

ンからパリまで一本のトンネルもない。そうだ。国土の成り立ちが全く違うのである。

④平野が小さく分散
住宅を建てるにも、工場を造るにも平野が必要であることは言うまでもない。しかし、ドイツやフランスなどに比べ、その平野が狭く、分散している。当然土地利用は極めて非効率的にならざるをえない。

⑤しかも、軟弱な地盤

この小さな分散された平野は、軟弱極まりない。六〇〇年前ほどの縄文海進以降、海面が下がったところに河川の土砂が堆積してできたのである。実は、「まだまだよく締め固まっていない」平野なのだ。別の方から聞いた話だが、日本は言わば豆腐の上に国を作っているようなものだともいう。

元々川だった所にできた平野。お

げで地下水は豊かだ。水田耕作に適しているのも同じ理由である。

⑥地震の巣

ようやく地震。我が国の地表面積は世界のわずか〇・二五％。ところが世界のマグニチュード六以上の地震の二〇％が日本付近で起きているのである。地球上を覆う一三枚ほどのプレートのうち四枚が日本付近でせめぎ合い、夥しい地震を引き起こしている。ちなみに、ヨーロッパもアメリカもそれぞれ、ほぼ一枚のプレートの上にあるらしい。国土の土台が全く違うのだ。

⑦雨が多い……しかも

我が国には世界の平均の二倍の降水がある。しかも、その水は脊梁山脈を滝の如く一気に下る。河川の水量は急激に変化し、洪水が起きやすい。

にもかかわらず、水不足が起きる。日本には多くのダムがあるが、貯水量

は全部で二三〇億トン。フーバーダム一つで三五〇億トン、三峡ダム一つで三九〇億トン。全く比較にならない。

⑧そして豪雪

札幌市は、年間の累積降雪量が六メートルほどある。ここに約二〇〇万の人が住んでいるが、こんな町は世界にただ一つである。札幌は究極であるが、実は、国土面積の六割は積雪寒冷地なのである。

四 見直しポイントの具体

前述の見直しすべきポイントについて説明する。

①5学年社会科の標準時数は一〇〇時間。そのうち二五時間前後を国土の学習に当てている学校が多いのではないか。それを少なくとも一〇時間程度増やすべきと思う。前述の脆弱性八点の指導だけでもそれぐらいは必要だ。本当は、5年6年の社会科時数全体を増

やすべきである。

②諸外国との比較は必須である。子どもは、自分たちの日々の生活が当たり前で、世界中同じ環境と想っている。日本の特殊性を理解させるには諸外国との比較が欠かせない。

さらに、国土を守るには、税金の投入が必要である。どれだけの投入を可とするか、合理的な合意形成の前提として、我が国の特質を世界との比較で知る必要がある。

③国土の脆弱性を知ることが生き死にかかわることである。だから、知識を確実に習得させることが必須である。考えているだけでは足りない。身に染みた知識が必要なのだ。

④ICTを活用したい。諸外国との比較には、写真や地図を実物投影機などで大きく映すことが有効。小学生国土学習の電子教科書もぜひ作りたいもの

だ。国土の脆弱性は教師も知らない。英語ノート電子版のようなサポートがあるとかかなり指導しやすくなる。

⑤他教科との連携は言うまでもないだろう。自国の国土について教えるのは社会科だけの責任ではない。

五 そして豊かな日本の国土

脆弱性のことばかり書いたが、マイナス要件はプラスにつながるもの。豊富な温泉に恵まれていること。乾燥した砂漠が多い地球の中緯度地帯にあつて、例外的に恵まれた緑があること等々。日本の豊かな国土についての学習も必須である。

とすれば、五年社会科は、一〇〇時間では到底足りない。社会科の重要性が再認識される時代が来る。

△北海道札幌市〓山の手南小学校校長▽